

決定の条件を分析する

100 XP

3 分

このユニットでは、エキスパートが特定のビジネス ニーズに使用する IoT サービスを決定するときに採用する条件を分析します。この条件を理解することは、各製品の微妙な違いをより深く理解するためにも役立ちます。

デバイスが侵害されないようにすることは重要か

デバイスが悪意を持って侵害され、不正目的で利用されることを望む製造業者や顧客はいませんが、ATM の整合性を確保することは、たとえば洗濯機よりも重要です。製品の設計でセキュリティが重要な考慮事項である場合、最適な製品の選択肢は Azure Sphere です。IoT デバイス向けに包括的なエンドツーエンド ソリューションが用意されています。

前のユニットで説明したように、Azure Sphere を使用すると、ハードウェアからオペレーティング システムや認証プロセスに至るまですべてを制御することで、デバイスと Azure 間の安全な通信チャネルを確保できます。これにより、デバイスの整合性が侵害されないようにすることができます。セキュリティで保護されたチャネルが確立されると、メッセージをデバイスから安全に受信でき、メッセージまたはソフトウェア更新プログラムをリモートでデバイスに送信することができます。

レポートと管理のためにダッシュボードは必要か

次に決定するのは、IoT ソリューションに必要なサービスのレベルです。リモート デバイスに接続してテレメトリを受信し、場合によっては更新プログラムをプッシュするだけで、レポート機能は必要ない場合は、Azure IoT Hub を単独で実装することをお勧めします。その場合でも、プログラムは、IoT Hub の RESTful API を使用して、カスタマイズされた一連の管理ツールとレポートを作成することができます。

しかし、事前に構築され、カスタマイズ可能なユーザー インターフェイスを使用してデバイスをリモートで表示および制御できる必要がある場合は、IoT Central から始めることをお勧めします。このソリューションを使用すると、単一のデバイス、または一度にすべてのデバイスを制御でき、デバイス障害などの特定の条件に対してアラートを設定することもできます。

IoT Central を使用すると、IoT Hub を含むさまざまな Azure 製品と統合し、レポートと管理機能を備えたダッシュボードを作成することができます。ダッシュボードは、一般的な業界や使用シナリオ向けのスターター テンプレートに基づいています。スターター テンプレートによって生成されたダッシュボードは、そのまま使用することも、ニーズに合わせてカスタマイズすることもできます。さまざまなユーザー向けに複数のダッシュボードを作成することができます。